



第7回仙台国際音楽コンクール 概要資料

開催日程

ピアノ部門 : 2019年5月25日～6月9日
ヴァイオリン部門 : 2019年6月15日～6月30日

会場 : 日立システムズホール仙台
(仙台市青年文化センター)

仙台国際音楽コンクールとは

「仙台国際音楽コンクール」は、仙台市が開府四百年を記念して2001年に創設、その後3年ごとに開催しているコンクールです。

才能ある若い音楽家を輩出することにより、世界の音楽文化の振興及び国際的文化交流の推進に寄与することを目的とし、ヴァイオリン部門とピアノ部門の2部門からなります。コンチェルト(協奏曲)を課題曲の中心に据えるという特色を持ち、若い音楽家がオーケストラと共演する演奏が審査されます。



2005年より「国際音楽コンクール世界連盟」にも加盟しており、その規約に則った公正で信頼性の高い運営で評価をいただいております。

コンクールは、演奏動画等による予備審査を経て、仙台で行われる予選、セミファイナル、ファイナルという構成になっております。

予選は、ピアノ部門では独奏で、ヴァイオリン部門では独奏とオーケストラとの共演で、セミファイナル以降は両部門ともオーケストラ(仙台フィルハーモニー管弦楽団)との共演による演奏が審査されます。予選以降は全て公開で行われ、第6回コンクールには約9,000人という観客が来場し、才能あふれる若い音楽家たちの熱演を楽しみ、彼らに温かい拍手を贈りました。

また、多くの市民ボランティアによる運営サポートもこのコンクールの特徴の一つです。ボランティアは会場で受付、ご案内を担当する「会場運営サポート部門」、出場者の通訳やアテンド、出場者が日本文化に触れながら、市民との交流をする場となる“交流サロン”を運営する「出場者サポート部門」、コンクール開催周知ならびに出場者に仙台を紹介する印刷物等を作成する「広報宣伝サポート部門」、そしてコンクール出場後に仙台に滞在する出場者を家庭に受け入れる「ホームステイ受け入れ部門」の4部門で構成されております。彼らによる温かいおもてなしは、出場者だけでなく審査委員からも好評をいただいております。仙台国際音楽コンクールの大きな柱となっています。

コンクール開催期間中の仙台市内では、次のラウンドに進めなかった出場者が各所で演奏する「チャレンジ・ライブ」や、小中学校を訪問し演奏する「学校訪問ミニ・コンサート」などが数多く実施されるほか、審査委員を講師に迎えての「審査委員によるマスタークラス」も開催され、多くの市民がクラシック音楽を楽しみ、また、世界レベルの音楽家と交流を図る機会ともなっております。

第7回仙台国際音楽コンクールでは

- ◆2010年 第4回ピアノ部門優勝者であり、2013年ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクール優勝者のヴァディム・ホロデンコ氏が審査委員に就任しました。
- ◆2004年 第2回ヴァイオリン部門優勝者の松山冴花氏が審査委員に就任しました。
- ◆ヴァイオリン部門セミファイナルの課題に、コンサートマスターとしての演奏が加わりました。
- ◆オーケストラの指揮は、ピアノ部門は広上淳一氏が、ヴァイオリン部門は高関健氏が担当します。
- ◆ヴァイオリン部門予選のオーケストラ(指揮者なし)は、仙台フィルハーモニー管弦楽団と山形交響楽団メンバーが担当します。

■第7回仙台国際音楽コンクール開催概要

名 称	第7回仙台国際音楽コンクール 7 th Sendai International Music Competition < 略称: SIMC >
開催部門	ピアノ部門 / ヴァイオリン部門
開催期間	2019年5月25日(土)～6月30日(日)
会 場	日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター) 宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5
出場資格	1991年1月1日以降に出生した者(国籍不問)
申込受付期間	2018年6月14日(木)～11月14日(水)(当日消印有効/オンライン申し込みの場合は24:00(日本時間))
賞	1位賞金 300万円 ほか ・CD制作 ・仙台フィルハーモニー管弦楽団又は日本の代表的なオーケストラとの共演 ・リサイタル出演
運営委員長	海老澤 敏(尚美学園大学名誉教授)
審査委員長	野島 稔(ピアノ部門) / 堀米 ゆず子(ヴァイオリン部門)
オーケストラ	ヴァイオリン部門予選: 仙台フィルハーモニー管弦楽団と山形交響楽団によるオーケストラ 両部門セミファイナル、ファイナル: 仙台フィルハーモニー管弦楽団
指 揮	ピアノ部門: 広上 淳一(京都市交響楽団常任指揮者兼ミュージックアドバイザー) ヴァイオリン部門: 高関 健(仙台フィルハーモニー管弦楽団レジデント・コンダクター)
主 催	仙台国際音楽コンクール組織委員会 仙台市 公益財団法人仙台市市民文化事業団

■第7回仙台国際音楽コンクール審査委員【ピアノ部門】



野島 稔 NOJIMA Minoru /審査委員長【日本】

東京音楽大学学長、桐朋学園大学院大学特任教授。日本を代表する国際的ピアニストの一人で、世界各地での演奏活動や録音が絶賛されている。ヴァン・クライバーン、エリーザベト等、多くの国際コンクールで審査委員を務め、2006年にはく野島稔・よすかピアノコンクールを創設し、若いピアニストのさらなる育成に尽力している。



植田 克己 UEDA Katsumi /審査副委員長【日本】

東京藝術大学名誉教授、東京藝大ジュニア・アカデミー校長。1977年ロン=ティボ一国際音楽コンクール第2位大賞受賞。日本、ヨーロッパ、中国などで演奏活動を展開。リサイタルを始め、N響、ベルリン響などオーケストラとの共演、室内楽で活躍している。ケルン、浜松、ジュネーヴ等、多くの国際コンクールで審査委員を務める。



マッティ・レカッリオ Matti RAEKALLIO /審査副委員長【フィンランド】

ジュリアード音楽院教授。様々なチクルスに取り組み、62曲のピアノ協奏曲を演奏するなど幅広いレパートリーを持ち、録音も高く評価されている。シベリウス音楽院、ストックホルム音楽大学、ハノーファー音楽演劇大学などの教授職を歴任。ピアノ運指の歴史研究や、認知心理学の観点からピアニストの指使いの選択の研究も行っている。



アンドレア・ボナッタ Andrea BONATTA【イタリア】

イタリアの最も著名なピアニストであり成功した指揮者の一人。演奏活動は世界中に及び、録音やブラームスのピアノ作品に関する著書が高く評価されている。主要な国際コンクールの審査委員として多数招かれており、ブゾーニ国際ピアノコンクールの芸術監督及び審査委員長、国際音楽コンクール世界連盟の副会長も務めた。



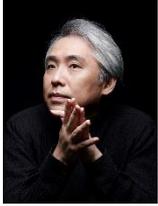
リチャード・ダイヤー Richard DYER【アメリカ】

ボストン・グローブ紙で33年間、クラシック音楽の評論を掲載。際立った音楽評論家としてASCAPディームズ・テイラー賞を2回受賞。新聞社を退社後も、ピアノやオペラに対する深い造詣によって、ライター、教師、コンクール審査委員として活躍。ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクールでは審査委員を2001年から4回務めている。



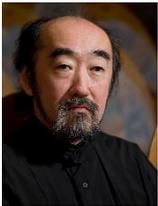
ヴァディム・ホロデンコ Vadym KHOLODENKO【ウクライナ】(新規委嘱)

第4回仙台国際音楽コンクール優勝者。2013年ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクールでも優勝。音楽的活力に満ち溢れ技巧の天賦に恵まれた新世代のピアニストとして名声を確立した。ゲルギエフ、山田和樹、フィラデルフィア管、ロイヤル・フィルなど主要な指揮者やオーケストラと共演を重ね、リサイタルも世界各地で開催している。



キム・デジン KIM Daejin 【韓国】

韓国を代表するピアニスト、音楽指導者。世界各地でリサイタルやオーケストラとの共演を重ね、指揮者としても活躍。国際的な評価を得ているマスタークラス、国際コンクール審査委員などでも多数招かれている。現在、韓国芸術総合学校ピアノ科教授。門下生から、リーズ、ジュネーヴなど主要コンクールの優勝者を輩出している。



野平 一郎 NODAIRA Ichiro 【日本】（新規委嘱）

東京藝術大学作曲科教授。作曲、ピアノ、指揮、プロデュース、教育など多方面に活躍。ピアニストとしては内外の主要オーケストラや国際的な名手たちと共演し、古典から現代までレパートリーは幅広い。100曲以上に及ぶ作品は、フランス文化庁やモンリオール響など海外からの委嘱も多く、初演や音楽祭で圧倒的な成功を収めている。



ジャック・ルヴィエ Jacques ROUVIER 【フランス】

ザルツブルク・モーツァルテウム大学教授。カントロフ、ミュレールとピアノ・トリオを結成して活躍。ラヴェルのピアノ曲全集、ドビュッシー作品全集など録音は30以上あり、フランスのディスク大賞を受賞している。ソリスト、室内楽奏者として多くの音楽祭やアカデミーに参加、世界中のマスタークラスにも招待されている。



ミハエル・シェーファー Michael SCHÄFER 【ドイツ】

ミュンヘン音楽演劇大学教授。最も多才なソリスト、室内楽奏者、そして歌の伴奏者として世界的な名声を得ている。録音も多数あり、ヴァンサン・ダンディやレオニード・サバネーエフのピアノ作品全集などが受賞、高い評価を受ける。後進の指導にも長年取り組み、国際コンクールで入賞するなど門下生の多くが世界各地で活躍している。



オクサナ・ヤブロンスカヤ Oxana YABLONSKAYA 【アメリカ／イスラエル】

ジュリアード音楽院名誉教授。17歳でモスクワの中央音楽学校の最年少指導者となり、モスクワ音楽院でも指導。イタリアではピアノ学院を設立し、現在はエルサレム音楽舞踊アカデミーで教鞭を執る。リサイタルは40カ国以上で行われ、主要オーケストラとの共演や録音も多数。教師、演奏家としての経験をまとめた自叙伝も執筆している。

■第7回仙台国際音楽コンクール審査委員【ヴァイオリン部門】



堀米 ゆず子 HORIGOME Yuzuko /審査委員長【日本】

ブリュッセル王立音楽院教授、マーストリヒト音楽院教授。日本を代表する国際的ヴァイオリニストの一人。ベルリン・フィル、ロンドン響、シカゴ響、アバド、小澤征爾、ラトルなど世界一流のオーケストラ、指揮者と共演。世界中の音楽祭にも数多く招かれ、マスタークラスも各地で開催。多くの音楽プロジェクトにも取り組んでいる。



堀 正文 HORI Masafumi /審査副委員長【日本】

NHK交響楽団名誉コンサートマスター、桐朋学園大学教授。N響のコンサートマスターを35年間務め、長きにわたり楽団を牽引。ソロ・リサイタルや室内楽でも活躍している。大学で後進の指導にあたり、国際コンクールで審査委員を務めるなど、日本クラシック界を代表するヴァイオリニストとして精力的な活動を繰り広げている。



ボリス・ベルキン Boris BELKIN /審査副委員長【ベルギー】

7歳でコンドラシンと共演デビュー。モスクワ音楽院を経て西欧に移住後、世界的な演奏活動を展開。ベルリン・フィル、ボストン響、小澤征爾、ラトル等、主要なオーケストラや指揮者と共演を重ね、絶賛されているパガニーニの協奏曲など録音も多数。バシュメット、マイスキー等と室内楽に取り組み、マスタークラスも毎年開催している。



オリヴィエ・シャルリエ Olivier CHARLIER【フランス】(新規委嘱)

弱冠10歳でパリ国立高等音楽院に入学。ブーランジェ、メニューイン、シェリングから才能を認められ、頭角を現わす。フランス国立管、ロンドン・フィル、チューリッヒ・トーンハーレ管、N響など主要オーケストラと共演し、室内楽でも活躍。録音も多数あり、プラハ室内管を弾き振りしたモーツァルトの協奏曲など高い評価を得ている。



ロドニー・フレンド Rodney FRIEND【イギリス】

傑出した英国生まれのヴァイオリニスト。ソリスト、室内楽奏者、コンサートマスター、音楽監督、教育者として、偉大な音楽家達と共演。バレンボイム、ショルティ、バーンスタイン、メータ等、一流指揮者と仕事をこなしたコンサートマスターとしての活躍は伝説となり、著書「オーケストラのためのヴァイオリニスト」も高く評価されている。



加藤 知子 KATO Tomoko【日本】

桐朋学園大学教授。1982年、第7回チャイコフスキー国際コンクール第2位受賞。以来、国内はもとよりアメリカ、ヨーロッパ、南米、韓国、中国やモスクワ等、世界各地でオーケストラとの共演やリサイタル、室内楽公演に出演、常に高い評価を受けている。室内楽ではリリア・アンサンブルの中枢として活躍。CDも多数リリースしている。



ヤンウク・キム Younguck KIM 【アメリカ】

ソウル国立大学音楽学部ヴァイオリン科主任教授。カラヤン、バーンスタイン、小澤征爾などの指揮で、多くの有名オーケストラと共演。アメリカでは、ほぼ全てのオーケストラと共演している。ザルツブルク、エディンバラ、タングルウッド等、多数の音楽祭にも出演。ソリスト、室内楽奏者として世界中の聴衆を魅了し続けている。



ギドン・クレーメル Gidon KREMER 【ラトビア】 ※ファイナル

輝かしいキャリアを持つヴァイオリニスト。バーンスタイン、カラヤン等、屈指の指揮者と共演。120枚を超えるアルバムは数多くの賞を受賞。知られざる作品の発掘にも熱意を傾け、多くの聴衆に数々の名曲を紹介してきた。音楽祭の創設、若い音楽家の育成、執筆活動など、その活動は高い評価を受けている。2016年、高松宮殿下記念世界文化賞受賞。



チョーリャン・リン Cho-Liang LIN 【アメリカ】

ジュリアード音楽院教授、ライス大学教授。1980年、メータ指揮ニューヨーク・フィルとの共演でデビュー。以来、世界中ほとんど全ての主要オーケストラと共演してきた。録音も数多く、グラモフォン・レコード・オブ・ザ・イヤー、ペンギン・ガイド・ロゼット賞を受賞。現代の作曲家たちを支持し、新しい作品の委嘱にも努めている。



松山冴花 MATSUYAMA Saeka 【日本】（新規委嘱）※予選、セミファイナル

第2回仙台国際音楽コンクール優勝者。2歳でヴァイオリンを始め、9歳でニューヨークへ渡りジュリアード音楽院で学ぶ。多くの著名コンクールで頭角を現わし、ソリスト、リサイタル、室内楽と幅広く活躍。タングルウッドなど国際音楽祭にも参加。ピアニストの津田裕也とデュオを組み、全国各地でリサイタルを行いCDもリリースされている。



ジョエル・スミルノフ Joel SMIRNOFF 【アメリカ】（新規委嘱）

ジュリアード音楽院教授。指揮者、ヴァイオリニスト、そして教育者であり、クリーヴランド音楽院の学長を務めた。小澤征爾から勧められたことをきっかけに指揮者となり、多くのオーケストラと共演。ジュリアード弦楽四重奏団の元メンバーであり、グラミー賞の特別功労賞生涯業績賞を受賞。トニー・ベネットと共演してジャズ演奏も行う。



イザベル・ファン・クーレン Isabelle VAN KEULEN 【オランダ】（新規委嘱）

カリスマ性と多様な表現力で魅了するヴァイオリン及びヴィオラ奏者。ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、N響など主要オーケストラと共演を重ね、室内楽、音楽祭でも活躍。レパートリーは幅広く現代の作曲家も含まれる。2012年から、ルツェルン応用科学芸術大学でヴァイオリン、ヴィオラ、室内楽の教授を務めている。

■過去の入賞者の主な活躍(国際音楽コンクールの入賞など)

<ピアノ部門>

ジュゼッペ・アンダローロ(第1回第1位)

- : 香港国際ピアノ・コンクール第1位(2011)
- : 第55回フェルッチョ・ブゾーニ国際ピアノコンクール第1位(2005年)
- : ロンドン国際ピアノ・コンクール 2002 第1位(2002年)

イ・ジンサン(第1回第2位)

- : 香港国際ピアノ・コンクール第1位(2008)
- : ケルン国際ピアノ・コンクール第1位(2005年)

ユジャ・ワン(第1回第3位)

- : クラシック FM グラモフォン・アワード 2009 年間新人賞
- : 2010 年エイヴリー・フィッシャー・キャリア助成金獲得

ロベルト・プラノ(第1回第5位)

- : AXA ダブリン国際ピアノ・コンクール第3位(2006年)
- : 第4回エスター・ホーネンズ国際ピアノ・コンクール第3位(2003年)
- : 第14回クレーヴランド国際ピアノ・コンクール第1位(2001年)

アミル・テベニヒン(第1回第5位)

- : ジョルジュ・エネスク国際音楽コンクール第1位(2009年)
- : 第1回カール・ベヒシュタイン国際ピアノ・コンクール第2位(2006年)

タン・シャオタン(第2回第1位)

- : 北京中央音楽学院准教授

高田 匡隆(第2回第2位)

- : モントリオール国際音楽コンクール第2位(2008年)
- : マリア・カラス大賞(2006年)

ミハイル・ナミロフスキー(第2回第3位)

- : ルイジアナ国際ピアノ・コンクール第1位(2011年)

ショーン・ケナード(第2回第5位)

- : ルイス・シガール国際音楽コンクール第1位(2007年)

津田 裕也(第3回第1位)

- : 東京藝術大学講師

ルー・イチュ(第3回第2位)

- : アラド国際ベートーヴェンピアノ・コンクール第2位(2007年)

オクサナ・シェフチェンコ(第3回第3位)

- : オルベッテロ国際ピアノ・コンクール第1位(2017年)
- : スコティッシュ国際ピアノ・コンクール第1位(2010年)

ヴァディム・ホロデンコ(第4回第1位)

- : 第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクール第1位(2013年)
- : シューベルト国際ピアノ・コンクール第1位(2011年)

マリア・マシチュワ(第4回第2位)

- : 第65回ジュネーヴ国際音楽コンクール第2位(2010年)

マリアンナ・ブルジェヴァルスカヤ(第4回第3位)

- : ハエン国際ピアノ・コンクール第1位(2011年)
- : ベルデ国際ピアノ・コンクール第1位(2011年)
- : マリアカナルス国際ピアノ・コンクール第1位(2011年)

佐藤 彦大(第4回第3位)

- : 第62回マリア・カナルス・バルセロナ国際音楽演奏コンクール第1位(2016年)
- : サン・ニコラ・ディ・バーリ国際ピアノ・コンクール第1位(2011年)

ソヌ・イエゴン(第5回第1位)

- : 第15回ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクール第1位(2017年)
- : International German Piano Award(2015年)

アルテヨム・ヤスインスキイ(第5回第3位)

- : The Cincinnati World Piano Competition 第1位(2015年)

シン・ツァンヨン(第6回第5位)

- : 2017ソウル国際音楽コンクール第1位(2017年)

坂本彩(第6回第6位)

- : アミグダーラ国際ピアノ・コンクール第1位(2017年)

<ヴァイオリン部門>

スヴェトリン・ルセフ(第1回第1位)

- : ジュネーヴ音楽院ヴァイオリン科教授
- : 元フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター

ホァン・モンラ(第1回第1位)

- : 上海音楽学院教員
- : 第49回パガニーニ国際ヴァイオリン・コンクール第1位(2002年)

石橋幸子(第1回第4位)

- : ミュンヘン国際弦楽三重奏コンクール第1位(2012年)

白井圭(第1回第6位)

- : 第58回ミュンヘン国際音楽コンクール 第2位・聴衆賞(2009年)

松山冴花(第2回第1位)

- : エリーザベト王妃国際音楽コンクールヴァイオリン部門第4位(2005年)

アンドレアス・ヤンケ(第2回第4位)

- : チューリッヒ・トーンハーレ管弦楽団第1コンサートマスター
- : 第1回ベンジャミン・ブリテン国際ヴァイオリン・コンクール第3位(2004年)
- : 第23回ロドルフォ・リピツァ賞国際ヴァイオリン・コンクール第2位(2004年)

マクシム・ブリリンスキー(第2回第2位)

- : 第1回ベンジャミン・ブリテン国際ヴァイオリン・コンクール第2位(2004年)

有希・マヌエラ・ヤンケ(第2回第6位)

- : ベルリン国立歌劇場管弦楽団 vicarious 1st concert master
- : チャイコフスキー国際コンクール ヴァイオリン部門第3位(2007年)
- : レオポルト・モーツァルト国際ヴァイオリン・コンクール第2位(2006年)
- : 第50回パガニーニ国際ヴァイオリン・コンクール第2位(1位なし最高位/2004年)

アリョーナ・パーエフ(第3回第1位)

- : ロン・ティボー国際音楽コンクール審査委員(2014年、2018年)
- : モスクワ国際パガニーニコンクール第1位(2004年)
- : ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン・コンクール第1位(2001年)

エリン・キーフ(第3回第2位)

- : ミネソタ管弦楽団コンサートマスター
- : 第5回ソウル国際音楽コンクール第3位(2009年)
- : トルン国際ヴァイオリン・コンクール第1位(2007年)

シン・アラ(第3回第3位)

- : 第5回ソウル国際音楽コンクール第5位(2009年)
- : ジョルジュ・エネスク国際音楽コンクール第2位(2009年)

クララ・ジュミ・カン(第4回第1位)

- : 第15回チャイコフスキー国際コンクール第4位(2015年)
- : インディアナポリス国際ヴァイオリン・コンクール第1位(2010年)

アンドレイ・バラノフ(第4回第2位)

- : エリーザベト王妃国際音楽コンクール第1位(2012年)

長尾 春花(第4回第3位)

- : ハンガリー国立歌劇場管弦楽団コンサートマスター

キム・デミ(第4回第5位)

- : ハノーファー国際ヴァイオリン・コンクール第1位(2012年)
- : 第53回パガニーニ国際ヴァイオリン・コンクール最高位(2010年)

リチャード・リン(第5回第1位)

- : 第10回インディアナポリス国際ヴァイオリン・コンクール第1位(2018年)
- : 第1回シンガポール国際ヴァイオリン・コンクール第2位(2015年)

キム・ボムソリ(第5回第5位)

- : 第15回チャイコフスキー国際コンクール第5位(2015年)
- : ミュンヘン国際音楽コンクール最高位(2013年)

スリマン・テカツリ(第5回第6位)

- : ソウル国際音楽コンクール第2位(1位なし最高位/2015年)

岡本誠司(第6回第6位)

- : 第19回J.S.バッハ国際コンクール第1位(2014年)